

第7回ものづくり日本大賞 【九州ブロック】受賞概要



ものづくり日本大賞

九州經濟産業局長賞(11件)

産業社会を支えるものづくり	分類	製品・技術開発	企業別	中小企業
受賞名	茶園管理機械のロボット化技術の開発			
受賞者	かとう まさあき 加藤 正明 :他6名	所属企業	株式会社日本計器鹿児島製作所 :他2団体	
所在	鹿児島県南九州市		平均年齢	49歳

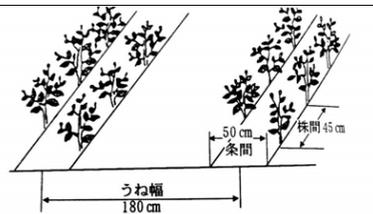
産業社会を支えるものづくり	分類	伝統技術の応用	企業別	中小企業
受賞名	桐箱製造の伝統技術と異素材を組み合わせた桐製品の開発・販売			
受賞者	ふじい ひろふみ 藤井 博文 :他2名	所属企業	株式会社増田桐箱店	
所在	福岡県古賀市		平均年齢	40歳

案件の概要

農業機械のロボット技術開発は、GNSS(衛星測位システム)を利用した畑作機械で開発が先行。一方、GNSSによる動作は精度が低く、ミリ単位の精度が必要な茶園管理での導入は困難だった。

本案件では、従来と異なる視点から茶の植栽規格に着目、茶樹をセンサーで検知し茶うねにそって走行、**作業を行うことができる無人の茶園管理ロボットを開発。**

本技術は、労働力不足の解消や農作業事故の防止、昼夜を問わない作業など、**今後の日本茶業の発展に大きく貢献することが期待される。**



うね幅 180 cm
50 cm 条間
株間 45 cm



無人で茶園の病害虫等を吸引回収する茶園クリーナー



無人でお茶葉を摘み取る収穫機

鹿児島県の茶園の標準植栽規格

案件の概要

桐箱業界は、全国的に高齢化や後継者不足によって廃業も増えており、**日本の桐箱製造技術、桐を用いる和の文化をいかに後世に残していくかという問題**に直面。

本案件は「**日常使用する米びつに桐製品を使ってもらうことで桐のよさをしっかり伝える**」というコンセプトのもと、若手デザイナーの新たなアイデアと熟練の職人による伝統技術の融合に加え、ロボットなどの最新技術導入によるコストダウンを行い**高品質で従来に比べて低価格な桐製の米びつを実現。**

国内にとどまらず、クールジャパンとして海外への和の文化の発信が期待される。



新たに開発した製品 (左)



従来からの製品 (右)

価格も大幅な低減を実現